

# 大崎ひまわり訪問看護ステーション

症例概要 利用者氏名： 1歳 女児

利用期間 : 令和3年2月 ~ 現在も継続中

2020年3月誕生。出生後に糞便性イレウス発症し回腸ストーマ造設。病理の結果ヒルシュスプリング病類縁疾患、21トリソミーと診断。空腸ストーマ・高位空腸瘻造設。徐々に栄養全身状態安定し自宅退院。洗腸・注腸ケア継続のため訪問看護介入。

## 内 容

---

出生から治療を頑張ってきた女児のケースです。

出生時の傷病に対し、ご両親は注腸洗腸管理手技を獲得後、自宅退院に至ります。病院からの依頼により大崎ひまわり訪問看護ステーションとして週3回、看護師のケア介入となりました。

初めご両親は、出産後すぐの転院、緊急手術に戸惑い受け入れられず、不安と恐怖で特にお母さんはたくさん泣いたそうです。そのため看護師は病状の細かな確認をしながら、女児の体調、皮膚の状態、腹満等の重要な確認ポイントを伝え、お母さんの精神的なケアを行いながら、サポートを継続していきました。

当初、腸管運動不十分なことから腸管内容が鬱滞し腹満が著しく腸炎を併発しやすい状態であったことから、腸管運動を促すため、腹部マッサージを行っていきました。その際は苦しくて泣いてしまうこともありましたが、大好きな音楽をかけてケアすることで、ご機嫌でケアを受けてくれるようになりました。

このように小児特有のケアの難しさを、大崎ひまわりの看護師たちはカンファレンスの中で共有し、子育て経験のある職員の経験なども参考にしながら、平準化した看護を提供できるよう工夫を続けていきました。

その結果、少しずつ少しずつ、日に日に元気な姿を見せてくれるようになり、お母さんも自信がついてきて、休日は兄弟含め、家族みんなで女児のサポートをするようになりました。

ご両親は子連れ再婚同士のステップファミリーです。お互いに実家が遠方なため、実家に頼ることもできない中、女児の誕生を機に家族の絆がさらに深まり、笑顔が溢れる素敵なお家族です。

入院中は体重が増えず試行錯誤していましたが、現在は経口ツインライン1000ml以上、離乳食も摂取

量が増え順調に体重増加が見られています。今まで栄養剤を混ぜて行っていた注腸も空腸排液のみになり、順調に体重増加となれば空腸ストーマ閉鎖となる予定です。腕の力がつきズリバイやお座りもできるようになりました。観葉植物を倒すなどいたずらもして、お母さんを困らせています。心身共にすくすく成長しており今後はリハビリ介入も検討予定です。女兒のケアを通して家族の絆、そして笑顔をたくさん生み出せた症例として、キラキラ介護賞に推薦します。